

2014. 1. 28

襖が育む日本の住まい



一般社団法人
日本襖振興会

襖や和の住まいについてお話させていただく機会を得ましたことを、まず感謝を申し上げます。

みなさん方は、日頃、襖について、たとえば家庭の中に襖が何本あるとか、どういう襖柄を張っているとか、引手にどういうものが付いているかなど、殆ど気にされることはないかと思いますが、本日は、襖の材料についてお話ししながら、和室とともに襖がどのように変化、発展し、日本の文化にかかわってきたかをお話させていただきたいと思います。

先ほどから日本の伝統文化について、いろいろなお話がありました。

同じように、和室・襖など、当然みなさま方もご存じのことばかりですので、大変話しづらいところでもございますが、日頃、襖にたっぷり浸かっている人間が、どういう見方をしているかということをご理解頂き、少しでもご参考になればと思います。

簡単に自己紹介をさせていただきますと、、、 **実は私は襖を作っているわけではなく、本業は襖の紙や表具の材料、壁紙・カーテンなどの内装材料の販売店でございます。従って、日常的に表具店・経師店様や内装工事店様との接点が多いのですが、その部材を作るメーカーやその職人さん達とお話をさせて頂いたり、他方、ディベロッパー、ハウスメーカーの設計やコーディネーターの方々とお話させていただく機会も多く、まあいろいろな側面から襖や和室を眺めているというところでございます。**

「襖が育む日本の住まい」というタイトルをいただきましたが、単なる間仕切りから始まった襖ですが、襖絵や引手、さらには襖の縁などの発展とともに、やがて主の趣味を表現したり、客人をもてなすための和室を形成する、完成度の高いツールとして大きな役割を果たしてきました。

襖は和室を醸成する大きな要素

間仕切りから始まった襖が、やがて客人をおもてなす襖絵と進化し、さらに襖の縁や引手など、主の趣味を表現するツールをも兼ね備えて、完成度の高い和室を形成するうえで大きな役割を果たしてきました。

約1000年前、当初の襖は几帳に布をかけて間仕切りをする程度だったのですが、その後、敷居や鴨居がついて部屋を完全に間仕切るものになりました。そこに絵を描くことで、和室の中での襖の存在価値が高まるとともに、それを支える技術や意匠を伴う文化として、和室と共に発展してきました。江戸時代、外様大名の控えの間には、虎や鷹の絵を描いて睨みを効かせたり、お殿様の後ろには大きな松を描いて威厳を誇示するといった意味合いもあったと聞いております。また一般庶民の間では、末広がりの扇面の図柄や、お金が貯まるようにと壺の絵を描いたりなど、縁起を担ぐものが好まれたようです。

今は生活様式も変わり、和室や襖のお話をすると、「生活スタイルもすっかり変わり、なかなか難しいですね」「もっと新しい部屋や斬新なデザインの建具を提案したらどうでしょうか」そんな話をされることがよくありますが、本日はあえて原点回帰、本物に近いところのお話をさせていただくことで、少しでも今回のテーマに沿った内容にまとめられます。

本日は3つに分けてお話をさせていただきます。

1. 襖の部材と仕上げ

①襖下地 ②襖縁 ③引手 ④襖紙 ⑤仕上げ

2. 襖と和の住まい

3. 大切にしたい 日本の文化

まず1つ目は襖の部材と仕上げです。部材と言えば、襖下地、引手、襖縁、襖紙ですが、最後に襖の仕上げについてお話しします。

2つ目は襖と和の住まい。生活様式の変化に伴い、和室の減少がますます顕著になってきているのが現状の中、和室にやすらぎを覚える方も多く、改めて「和の住まい」の良さを考えてみたいと思います。

3つ目は大切にしたい日本の文化についてです。日本を代表する文化と言えば、お茶・お華・着物などがすぐに出てきますが、日本固有の文化は、日本固有の和の住まいから生まれたものであるということを忘れてはならないと思います。言わば和の住まいは、他の国には真似のできない日本の固有の文化の母であり、国の宝であるという視点にたって、お話をしたいと思います。

襖の部材と仕上げ

①襖の下地の製作

のぶひろ
東京都優秀技能者 東京マイスター知事賞 骨師 鈴木 猛 坦 氏

まず襖の下地ですが、ここにサンプルを持ってきました。こちらが従来の組子襖の下地で当然木製です。紙は浮かして貼り、縁は簡単にはずれるようになっています。これが本来の襖で「和ふすま」と言われています。(図1)
「本襖」は「和ふすま」の高級仕上げで、紙を何回も張り重ねて仕上げるもので、今でも高度な技術をもった方がたくさんおられます。

これに対し、段ボール、ペーパーコア、発泡スチロールといった素材でできた量産襖があります。紙はベタ貼り、縁や引手はボンド付けではずす事はできません。芯材のなかには反り防止のためにアルミ箔がはいっており、最終的には産廃となります。

襖の部材と作業工程



今日は従来の和襖について説明いたします。

写真は下地を作っているところです。作っている方は優秀技能者で、東京マイスター知事賞を受賞した鈴木延坦さんです。



組子のホゾを作っています。(図2)



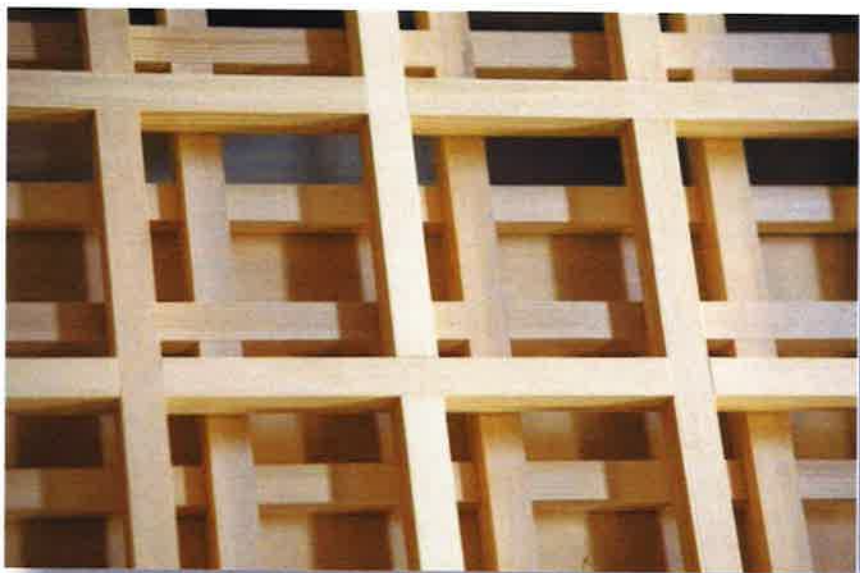
次は組子を組んでいるところです。建具である障子は片ホゾで、縦子を3本置いて、横は片側から叩いて組んでいきますが、襖の下地は相欠きで、布を織るように木を組んでいます。この組子がお互いに張り合い干渉しあって、多少の反りもまっすぐになりますし、組んだものは簡単にバラけません。こういったところは古えからの知恵であり素晴らしいところですが、下張りを張ると隠れてしまいます。





釘は鉄製ではなく竹釘を使用します。(図3、4、5)





襖の部材と仕上げ

②襖の引手



次は引手です。一つひとつ手作業で作っている様子です。(図6)



ユニークな引手もたくさんございます。
(図7、8、9)

最近はシンプルな引手が好まれるよう
で、単に丸い形のものが多く採用され
ていますが、かつてはいろいろな形の
オーダーがありました。



こういう引手には、その家の主人の趣味や好み
が感じられますし、遊び心が感じられ、部屋のお
もしろみが一気に変わります。いかがでしょう
か。





これは実際の襖に引手が入っている施工例です。右の方は福という文字を染め付けでやっています。別注で作らせることもあります。(図 10)

旅館などでは屋号やロゴを引手に仕込んだり、個人宅でも家紋を入れたりすることは、よくありました。シンプルな和室の中で、引手はよく目に付きます。値段は1個5000円、2万、3万といろいろありますが、ちなみに現在一般に一番使われているのは300円くらいのものです。

これは京都老舗旅館の御三家の1つ、炭屋旅館のホームページに掲載されているものです。(図 11)

少し文章を読ませていただきます。

「炭屋の客間にはいろいろな趣の引手がある。それは笹の葉であったり雀や糸巻きであったり、実用というよりもむしろ装飾的なものが多い。引手の歴史は古く、桂離宮や曼珠院など数寄屋造りにみられる引手のように、江戸時代に埋め込み金具の引手にも様々なデザインが生まれた。ご覧頂きますこの引手、瓢箪は種子が多いことから子孫繁栄のシンボルとして、また吉祥の縁起を担ぐとして喜ばれたようだ。



今でも様々な形で暮らしの中に溶け込んでいる。真ん中でくればた瓢箪の形が面白く、数奇と遊びがうまく調和して父自慢の引手のひとつであった。「ええか。襖は取り替えても引手は残しておきや」今はなき父の部屋の引手に掛けると、この言葉が聞こえてくるようである。」

ちなみにこの襖紙は、瓢箪に合わせて、鳶の絵が張ってありました。ここまでこだわる方は最近では少なくなってしまったのは残念ですが、昔は、といってもせいぜい20年位前までは、こうして襖絵とともに引手を楽しみました。

ここに高級な引手のサンプルを持参しましたので、回覧させて頂きます。銅製のものはグラム数と値段が書いてあります。またその中にいくつか、ごく一般的な鉄製やPC製のものも入れてありますので比較してみてください。

襖の部材と仕上げ

③襖 縁

次に縁です。縁のサンプルを回覧させて頂いておりますのでご覧下さい。

襖縁は大きく分けて生地縁、塗り縁、色付け縁に分けられ、こういった縁にもたくさんの種類があります。最近はおそらくというと白木縁という指定が多く、強化紙でラッピングしたようなものやアルミ製のものも出回っております。

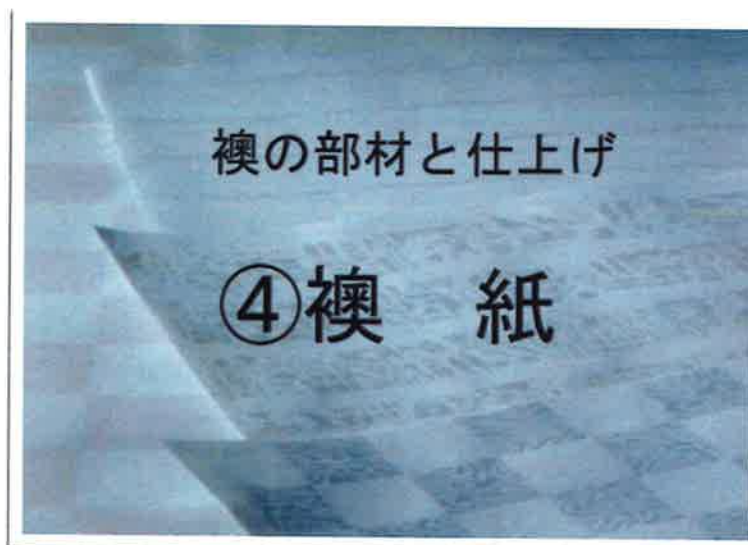


次の写真は、高級縁である漆塗り縁の最後の仕上げ行程です。最後は艶を出すために手で磨くんですね。漆は埃を嫌いますし、縮まないように湿気を調節するのが難しいので、隔離された室に閉じこもって仕事をします。この方は名古屋在住の方で、お回ししているサンプルを作って頂いたのですが、残念ながら 3 年前にお亡くなりになりました。こういう職人さんも少なくなる一方ですし、引き継ぐ若い方が少ないのが現状です。

(図 12)

縁にはいろいろと地域性があり、関西は細縁、京都では、さらに細いものもあります。逆に北陸は太縁で、雪国はどっしりとした大きい縁を使います。縁にもその土地の風土や気質を感じさせる地域性がございます。

襖紙の種類と絵柄



部材の最後は襖紙です。(図 13)

襖紙・襖柄

織物襖紙	最高級織物	高級織物	普及版織物	
鳥の子襖紙	手漉き 本鳥の子	機械漉き 鳥の子	上新鳥の子	茶裏 新鳥の子
特殊襖紙	本葛布	本芭蕉布	木版型押し	金細工

図柄	山水	花鳥	松竹梅	アート
柄の配置	腰模様	総模様	袖模様	帯模様
特殊柄	意匠張り			

襖紙は大きく分けて織物襖紙、鳥の子襖紙、特殊襖紙があります。そしてそれぞれに図柄があります。また図柄の配置は腰模様、総模様、袖模様、帯模様などがあり、さらに意匠張りというのもあります。ちなみにマンションなどで使われている新鳥の子というのは、襖のグレードではこれ以下がないという裾物です。せめて上新鳥の子か普及版織物にしていただければいかがと思います。

越前鳥の子



紙祖神を祭る岡太神社・大滝神社



五箇地区の街並み

紙漉きをご覧になられた方も多いと思いますが、本日は越前の鳥の子をご紹介します。越前には紙の神様がいます。福井県武生市の大滝神社で、由緒ある位の高い神社で、柿右衛門の彫刻もごぞいます。

次の写真は原料を流している写真です。右は鳥の子の型付けです。(図 14)



次は、輪転機刷りです。紙は3000mほどを一気に印刷します。

輪転機刷り

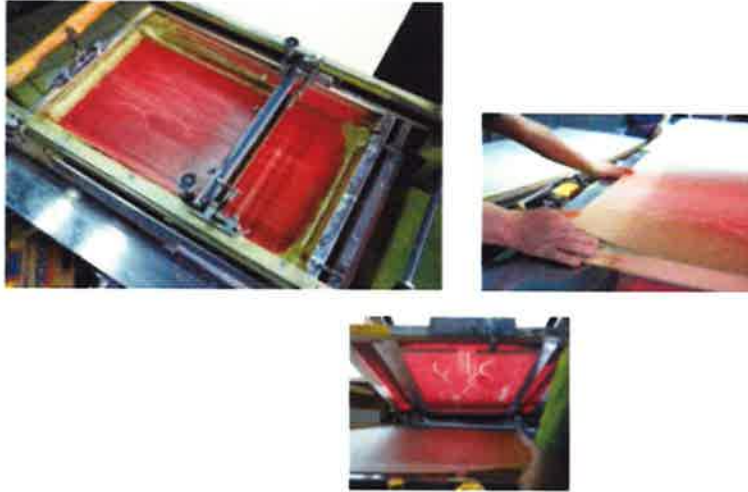


エンボス加工



売れ筋の品番ですとそれが5本6本。紙にしたら1万mとか3万mで作っています。出荷の数量ベースでは一番多いです。写真の左側はエンボス加工といって、ただ印刷をするだけではのっぺらぼうなので、紙肌を良くするために、かみ合わせのローラーで凹凸を付けています。さらに金砂子を振ったり、ギラ加工、ピース加工など、特殊な加工をして、グレードを上げるものもごさいます。(図 15)

スクリーン印刷



スクリーン印刷もあります。畳一枚くらいの大きなスクリーンです。風合いを出すために砂子を振っています。手で描き加える場合もございます。(図 16)

金砂子振り



襖絵の加工・加飾の方法は、これらの他にもまだまだたくさんあります。

次ぎは織物襖紙です。

織物襖紙



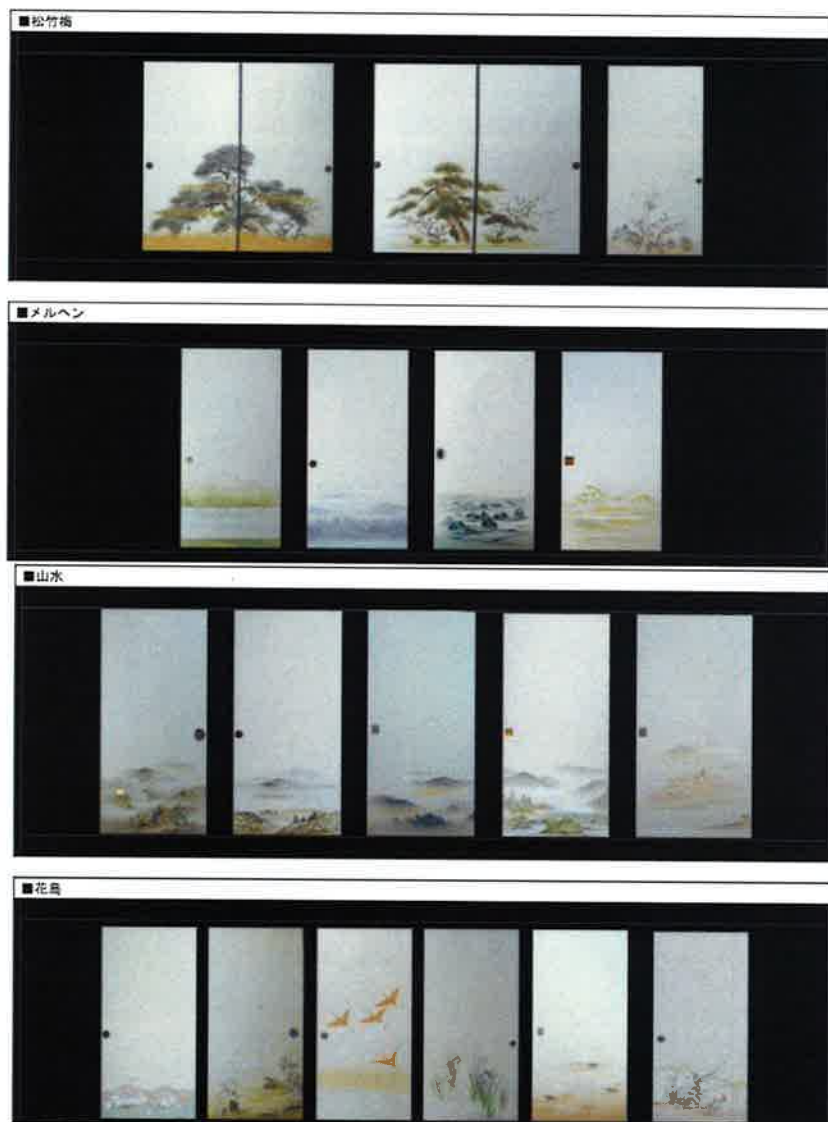
かつては糸のゆがみやキズなどをよく言われることがありましたが、ノンクレームを目指す建築業界の要請に応え、襖紙に使う織機は、高性能なエアジェット式の機械を使用しています。織上げた布に紙で裏打ちをして出荷します。(図 17)

襖柄 参考例

襖柄の種類・意匠についてもいろいろあります。全国 20 社程度のメーカーがございますが、見本帳としては100種類以上はあります。図柄の点数にして4～5000点。木版の型押しなどを入れると 1 万点以上あると思われます。

材料店にはいろいろな図柄の襖紙を在庫しておりますが、最近ではよく無地物をご要望されます。無地は無地の良さがありますがチョット残念に思います。

図柄をいろいろなタイプに分類してみました。山水、



花鳥、草花のほか、モダンな図柄もいろいろと作っています。山水や松竹梅も、全国的には相変わらず人気の高い商品です。(図 18、19) 雲、霞、下がり模様。(図 20、21)



■四枚建て柄



関西はタイガースがあるせいか、虎の柄がないかとよく言われます。作ると僅かな数しか出ないのですが。中には龍の柄が欲しいという方もいます。辰年生まれの方などでしょうか。ちなみに外国の方は柄を好むんですね。こちらの金の紙に描いている超豪華なものはオーストラリアに送るということで、最近16枚も出ました。しかし今の日本では出にくいです。額付きの画もございます。漢詩が入ったものもございます。(図 22)こういった額付きは、既製品で販売していますが、こういう風な書を襖に張ると、幼い頃は意味がわからなくても、何年もしてからその意味が理解できた時は、一つの教えがあることに気がきます。掛け軸と同じ。間仕切りに漢詩や絵を描くという日本独特な文化です。

次は描き絵、主の要請で好みにあわせて絵師が描きます。
その下は金細工です。(図 23)



次は手漉き本鳥の子の模様サンプルです。(図 24、25)



■雲・霞



■下がり模様



■手造り本島の子



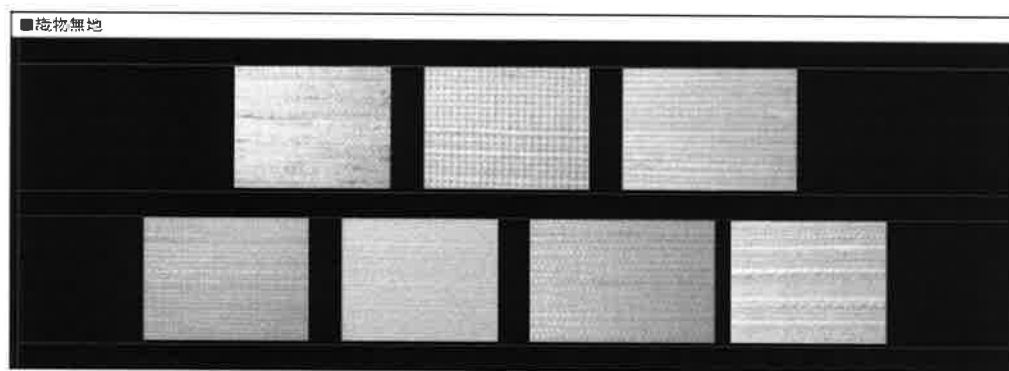




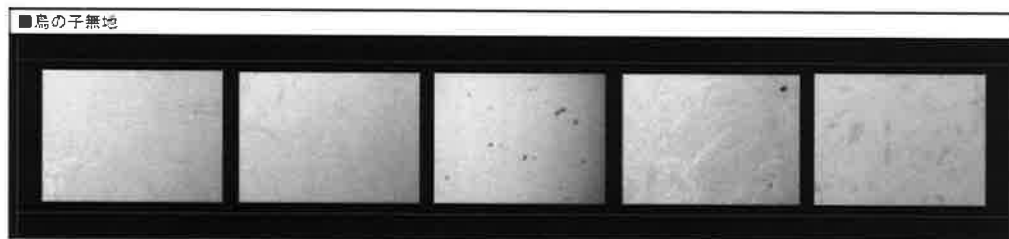
木版の型押しもあります。色も世界で一番微妙かつ種類の多い、多彩な日本の色を再現しています。京都の友禅と同じようなデザインがあり、どちらが先ということではなく、共通柄がいくつもあります。

(図 26)

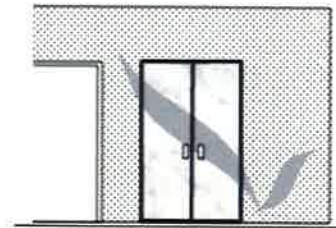
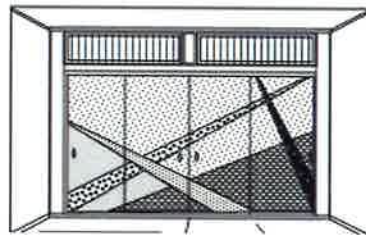
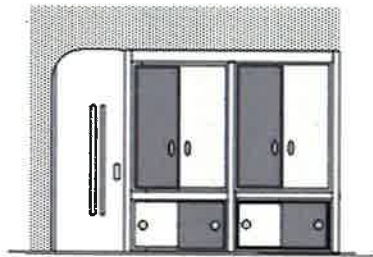
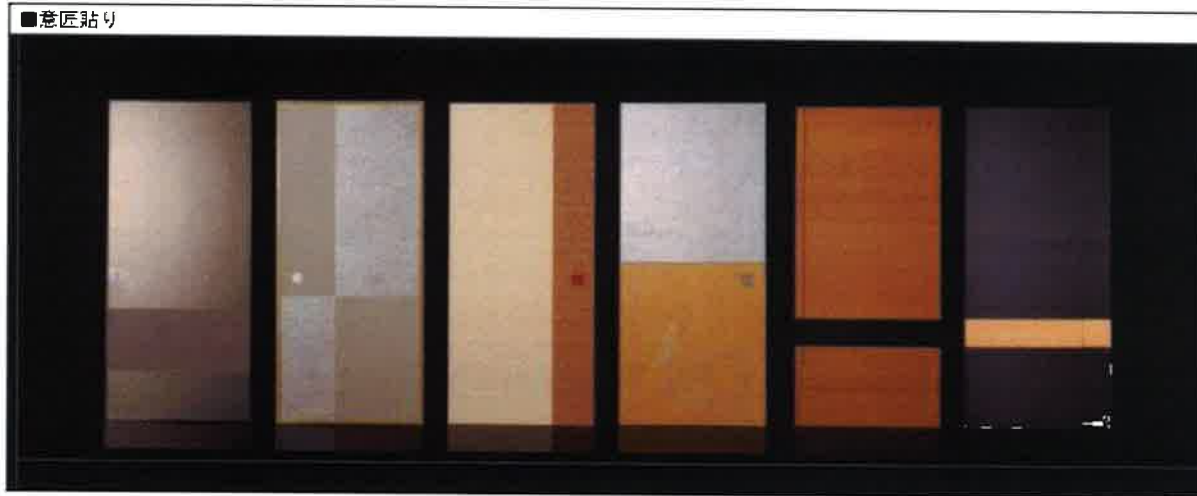
次は高級織物襖紙です。(図 27)



これも良い物がたくさんございます。最高級は本葛布です。値が高いものですが以前は良く使われました。また沖縄の芭蕉布や絹シケの襖紙もあります。



次は意匠貼り。オリジナルの襖紙を製作します。



これらは掛け軸などに携わる表具師あるいは経師屋さんの技術が活かされています。上は日本襖振興会がアイペック 21 に出品した作品で、下は某ハウスメーカーの実際の現場で採用された襖をスケッチしたものです。左のものは単に色を変えているだけです、貼る手間は同じ紙を張るのと同じです。紙を2枚使うだけで、費用もそれほど変わりなく、張り分けるだけで趣のあるものができます。(図 28)

襖の部材と仕上げ

⑤襖の仕上げ

表具師・経師

東京都伝統工芸士 一級技能士全国技能大会 労働大臣賞 表具師/ すのほら 春原敏雄氏

次は襖の仕上げです。写真は東京都伝統工芸士 一級技能士全国技能大会 労働大臣賞・表具師の春原敏雄さんの仕事風景です。

紙を丸い断ち包丁で断裁しています。糊は裏ごしをして、下貼りをし、胴張りをし、浮け紙を張って最後に襖紙を貼ります。(図 29～35)







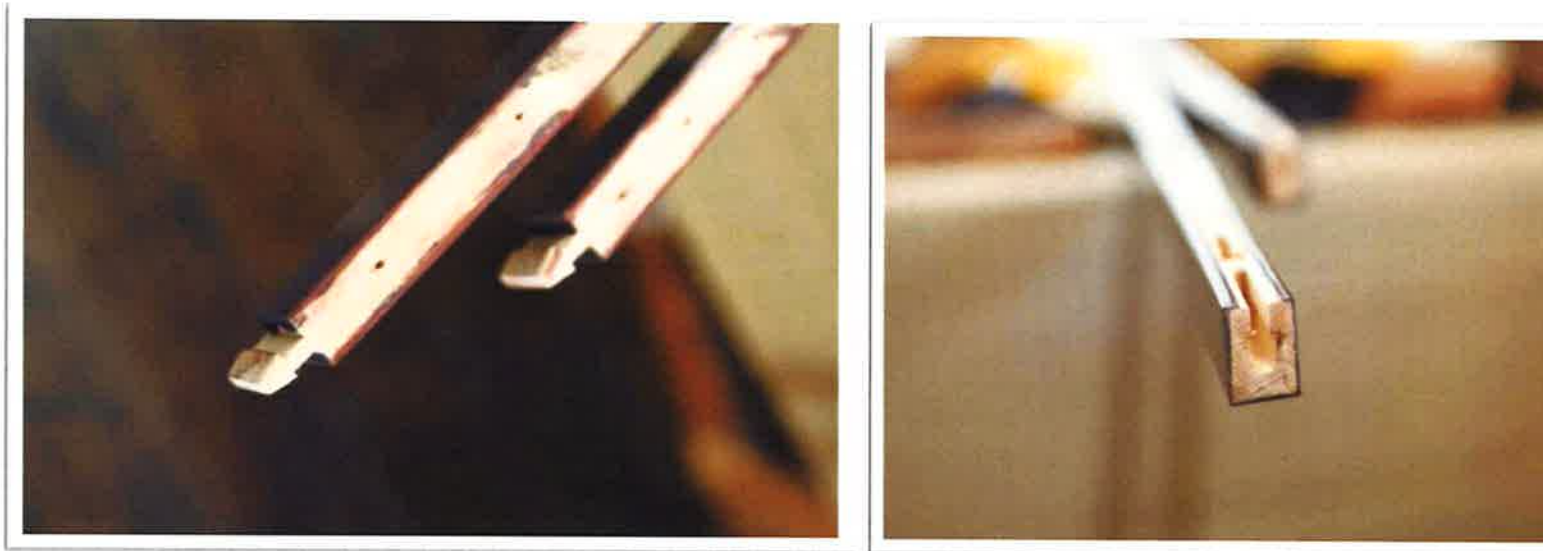
これは、本ふすまの断面を意図的に切り取ったものです。注目して欲しいのは、紙が何枚も貼られていますが、それぞれがくっつかないようにした浮かし貼りです。空気の層が多重にできて、保温効果や調湿など、日本の気候風土に合った襖ができます。世界が驚く襖の所以と言えます。(図 36)

また、襖紙の張替え時に、この浮かし紙のところまでめくことで最初と同じ状態に戻り、何度でも張替えができます。しかもその時に出るゴミは、紙だけ。好環境のお手本のようなものです。

縦縁の取付け工程で、北陸でよく使っているカマホゾです。(図 37)

最後に引手を取り付けて仕上げです。(図 38)

いくつかの施工例写真をご覧頂ければ分かりますが、部屋に何も無いのは殺風景ですが、絵があったり、面白い引手がついていると心が和みます。(図 39)







最先端は伝統にあり

最先端は伝統にあり

— 世界を驚かす襖 —



日本襖振興会は日本固有の文化を育んだ「和の住まい」を推奨し
襖文化を正しく継承することによって、
日本の生活文化の向上に貢献したいと願っています

「最先端は伝統にあり・世界を驚かす襖・」と書かせていただきました。日本襖振興会は、和の住まいを推奨し、襖文化を正しく継承することで、日本の生活文化の向上に貢献したいとして広報活動を行っておりますが、伝統的な「和のすまい」の中に、世界を驚かす生活の知恵があるということを、私たち自身がもっと気づいてほしいと思います。

“和のすまい”は、

日本固有の文化を培うとともに、

その生活環境が日本の文化と日

本人の優しい心を育みました。

大切にしたい和のすまい



伝統的な“和のすまい”の中に、世界を驚かす生活の知恵があるということを私たち自身がもっと気づいてほしいと思います。さらなる日本文化の新たな発展のために“和のすまい”を大切にし、その良さを現代の住まい中に取り入れていければと思います。

気配を感じる生活空間

気配を感じながらの生活空間が、自己中心ではなく、他の人への思いやりや気遣い、おもてなしの心などを養い、お互いが気持ち良く過ごす知恵を身につけてきたのではないかと思います。



和の住まいの特徴のひとつに、「気配を感じる生活空間」があります。和室はプライバシーという点で今の時代に合わないと言われることもありますが、果たしてどうでしょうか。そういった日常の生活空間こそが、自己中心ではなく、他の人への思いやりや気遣い、おもてなしの心などを養い、お互いが気持ち良く過ごす知恵を身につけてきたのではないかと思います。

靴を脱いで部屋に入る生活様式

日本人の清潔好きや几帳面さ、あるいは日本的な礼儀や行儀などの原点も、上敷きの生活、すなわち“和のすまい”にあったのではないかと思います。



また、「靴を脱いで部屋に入る生活様式」。日本人の清潔好きや几帳面さ、あるいは日本的な礼儀や行儀などの原点も、上敷きの生活、すなわち“和のすまい”にあったのではないかと思います。戦後生活スタイルがどんどん欧米化する中で、住宅においてはリビングルームがスタンダードになりました。

その頃のサラリーマンのステイタスであり、生活様式が一気に変わってしまいました。しかしその中で上敷きという生活習慣が残り、靴のまま部屋に入るといった生活に馴染まなかったということは、日本にとって幸いだったと思います。

住まいの中に自然を取り込む、季節を取り込む

自然を意識した住まい作りの中から、心を癒すという、肩肘をはらない極く自然な生活空間と穏やかな日本人的な考え方が生まれているのではないかと思います。



「住まいの中に自然を取り込む、季節を取り込む」というのも和の住まいの特徴です。自然を意識した住まい作りの中から、心を癒すという、肩肘をはらない、極く自然な生活空間と穏やかな日本人的な考え方が生まれているのではないかと思います。

資源の少ない国だからこそ、 モノを大切にする日本人の知恵



モノを大切にする思うことで、
“和の住まい”という生活環境そのものが、素直で謙虚で感謝を忘れない日本人と日本の社会を形成してきたのではないかと思います。

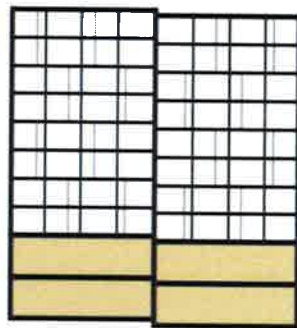
また「資源の少ない国だからこそ、モノを大切にする日本人の知恵」モノを大切にする事で、和の住まいという生活環境そのものが、素直で謙虚で感謝を忘れない日本人と日本の社会を形成してきたのではないかと思います。

いかに日本人がモノを大切にしてきたか、襖業界の中での一例をお話したいと思います。「茶室の和紙張り

茶室の和紙張り

和紙の継ぎ張りの意匠

昔の手漉き和紙の一枚の寸法は、丈約1尺（約30cm）×巾約1尺5寸でした。こうした小さな和紙を継ぎ張りして障子や襖や壁の腰張に用いました。紙の継ぎは単なる継ぎにとどまらず、表具師や茶人の美意識に磨かれて紙の継ぎが意匠の大切な要素にまで高められ、千鳥張りのように洗練された美しい張り方が生まれました。

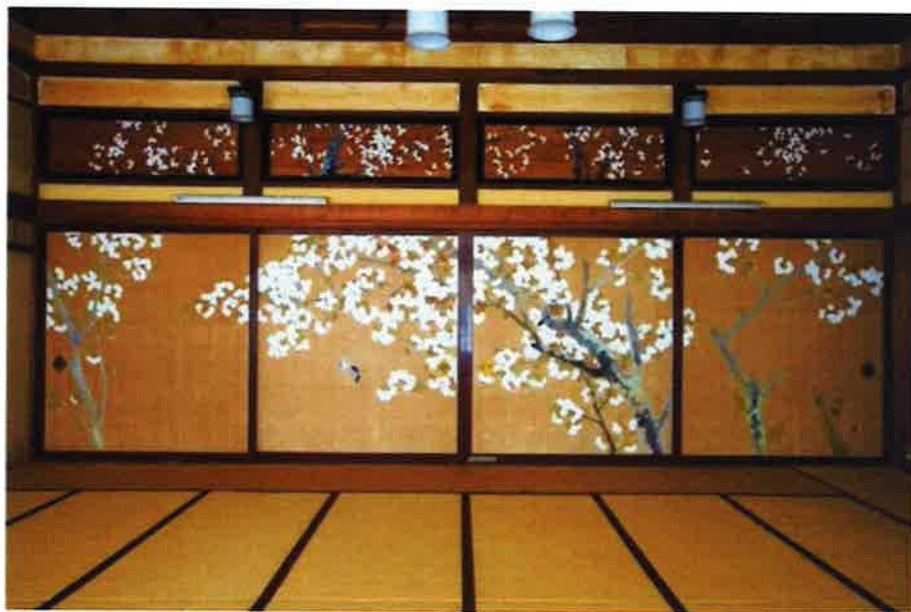


貴人口障子の一例

紙を継ぐ位置の割出しは、障子の巾を5等分し、5分の2の紙2枚と5分の1の紙1枚をジョイント、それを左右交互に、下から順にはっていきます。本式には、表千家と裏千家でジョイントの位置が異なります。

和紙の継ぎ張りの意匠」ということですが、昔の手漉き和紙の一枚の寸法は、丈約1尺×巾約1尺5寸でした。こうした小さな和紙を継ぎ張りして障子や襖や壁の腰張に用いました。そして注目すべきは、紙の継ぎは単なる継ぎにとどまらず、表具師や茶人の美意識に磨かれて紙の継ぎが意匠の大切な要素にまで高められ、千鳥張りのように洗練された美しい貼り方が生まれましたということです。(図40)

これは貴人口障子の一例ですが、紙を継ぐ位置の割出しは、障子の巾を5等分し、5分の2の紙2枚と5分の1の紙1枚をジョイント、それを左右交互に、下から順に貼っていきますと石垣のようになり、石垣張りとも言われています。本式には、表千家と裏千家でジョイントの位置が異なります。ちなみにこれは表流です。裏流の場合、僕が聞いているのはジョイントが真ん中にきて、2段ごとにやっています。いかがでしたでしょうか。いかに襖が伝統の技術と意匠に満ちたものであるか、また、本日の命題である、襖と和の住まいを考えるうえで、襖と和室がいかにその魅力を高め合いながら熟成してきたか、少しでもヒントになれば幸いです。



和の住まいについての5つのキーワードです。(図 41)

“和の住まい”

気	気の文化	和の住まいには、人と人との心が通じ合う暖かく優しい住環境があります。
季	季の文化	光や風を心と体に感じ、季節の移ろいを楽しむ日本人の心の豊かさを育みます。
座	座の文化	気楽に語らう「座」の楽しみと、木や畳の暖かみに心の安らぎを感じます。
間	間の文化	適度な間合いと、柔軟な開放感で、生活のゆとりさえも感じます。
納	納の知恵	無駄を省き、物を大切にする先人達の生活の知恵が、収納の世界にも生きています。

図 41

まず「気」の文化。和の住まいには、人と人との心が通じ合う暖かく優しい住環境があります。次に「季」の文化。光や風を心と体に感じ、季節の移ろいを楽しむ日本人の心の豊かさを育みます。「座」の文化。気楽に語らう座の楽しみと、木や畳の暖かみに心の安らぎを感じます。「間」の文化。適度な間合いと、柔軟な開放感で、生活のゆとりさえも感じます。「納」の知恵。無駄を省き、物を大切にする先人達の生活の知恵が、収納の世界にも生きています。



ここで襖のことではないのですが、この場を借り、是非申し上げたいことがございます。大切にしたい日本の文化、日本の心ではありますが、今、その和の住まいの推進に、積極的な取り組みがなければ、日本の文化も、それを支える職人さんたちも無くなってしまうということです。

“和の住まい” 推進について

大切にしたい日本の文化、日本の心

現 状

➤いま、和の住まいの推進に、積極的な取り組みがなければ、日本の文化も、それを支える職人さん達も無くなってしまう

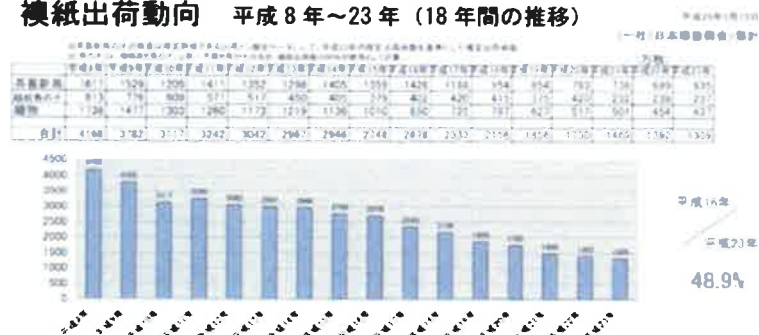
➤もう既に、どんどん和室が無くなっている
もう既に、和の住まいと縁の薄い世代が多くなっている。

もう既に、どんどん和室が無くなっています。和の住まいと縁の薄い世代が多くなっています。戸建住宅でも集合住宅でも、もはや和室はオプションという時代になりました。東京のマンションに和室がなくなったと聞いたのは 20 年近くも前。大阪では環状線の中に建つマンションに5、6年前から和室がなくなったと聞くようになりました。となると、今、20 歳になるような人達の多くは、子供の頃和室がない環境で育った可能性があります。和室を見たければお寺か旅館にでも行かなければならない、そんな時代が来ないとも限りません。

参考として、住宅の着工数と襖紙の出荷動向のデータがあります。(図 42)

住宅の着工数と 襖紙の出荷動向

襖紙出荷動向 平成8年～23年（18年間の推移）



住宅着工数の推移 平成16年～23年（7年間）



襖も着工数も減っていますが、住宅着工はほぼ 80 万戸で、今後もこのような数字で推移していくと言われていますが、7 年～8 年前と比較すると 70% くらいです。それに対し襖は 50% まで落ちています。

ここで和の住まいを残し、推進していくための私なりの3つの提言を申し上げたいと思います。

“和の住まい”の推進のための

三つの提言

1. 幼少教育の現場づくり
2. 和室のある住まい 提案募集
3. 新築住宅の和室への優遇税制

1つ目が幼少教育の現場づくりです。

提言 1. 幼少教育の現場づくり

全国小学校の空き教室を改造して和室を作り、お茶お花を通じた情操教育の場とするとともに、日本文化の啓蒙と継承の場、さらには新しい日本固有の文化発展の礎とする。

礼儀作法や道徳、躰など日本的なものの考え方を学ぶ場とし、ひな祭りや端午の節句、月見など、日本の節句行事を体験。

和室の生活空間を実体験することで、日本らしい優しい人間の育成につなげる。また襖や畳、床の間、掛け軸、さらに和室の歴史や変遷など、日本文化の知識を学び、外国人へのおもてなしの心を身につける。

まずモデル校を指定して教育カリキュラムを研究する



全国小学校の空き教室を改造して和室を作り、新しい日本固有の文化発展の礎とする。お茶やお花を通じた情操教育の場とするとともに、日本文化の啓蒙と継承の場、さらには礼儀作法や道徳、躰など日本的なものの考え方を学ぶ場とし、ひな祭りや端午の節句、月見など、日本の節句行事を体験。和室の生活空間を実体験することで、日本らしい優しい人間の育成につなげる。また襖や畳、床の間、掛け軸、さらに和室の歴史や変遷など、日本文化の知識を学び、外国人へのおもてなし心を身につける。まずモデル校を指定して教育カリキュラムを研究する。これをしっかりやっておかないと和室はなくなります。

提言 2. 和室のある住まい 提案募集

「人が集う和室-和室のある住まい」をテーマにコンペを実施する。居間としての和室を中心にした家作り。現代の生活習慣を考慮し、体に優しく癒しを感じる和室の新しい提言。和室だけでなく、洋室のリフォームにも応用可能な設計。和の住まい推進という意味からは、和室をよく知る職人さんや設計者等の状況を考慮すれば、チャンスは今しかない。参加対象・・・全国のハウスメーカー、デベロッパーなどの住宅設計やコーディネーター



こだわりの小部屋

和室を人の集まる“居間”にする
和の文化を凝縮した小さな和室



2つ目は、和室のある住まいのコンペです。4畳半あれば、こだわりの和室ができます。6畳もあればもう十分。「人が集う和室、和室を家庭団らんの場に」をテーマにコンペを実施することです。居間としての和室を中心にした家作り。現代の生活習慣を考慮し、体に優しく癒しを感じる和室の新しい提言。和室だけでなく、洋室からのリフォームにも応用可能な設計にしたいと思います。和室をよく知る職人さんや設計者等の状況を考えれば、残されたチャンスは、そういつまでもないと思います。

提言 3. 和室のある住宅への優遇処置

一般消費者にとって、和室の建築費用が洋室に比べ若干高くつくことが、和室を希望しながら最終的に断念する理由のひとつになっている。和室を取り入れた新築・リフォーム物件への助成金制度。

1. 助成金制度

(例) 和室面積 1 m²あたり、5,000 円の助成金
(6畳の場合 約 50,000 円)

2. 優遇税制

(例) 固定資産税の基礎面積から和室部分を除外する。

和室関連の職人さんたちの市場拡大と同時に、職人さんの技術の継承と人材育成につながる。経済波及効果も見込める

3つ目が新築住宅の和室への助成制度。一般消費者にとって、和室の建築費用が洋室に比べて若干高くつくことが、和室を希望しながら最終的に断念する理由のひとつになっています。従って、根拠のない数字ですが、1平米あたり5000円くらいの助成金を出してほしいですね。そして固定資産税の基礎面積から和室を除外するなどの優遇税制です。こういったことが、和室関連の職人さん達の励みとなり、技術の継承と人材育成にもつながると思います。

和の住まいこそ世界文化遺産に

最後に日本襖振興会としての大きな夢を申し上げたいと思います。それは、和の住まいが世界文化遺産に登録されることです。

和食も大切だけど、住まいも大切じゃないですかと言いたいんです。日本にしかない和の住まいこそが、日本の文化の産みの母、源であると申し上げたいと思います。

そして人が集う和室のリビングが、クールジャパンのひとつとしてトレンドになることです。2020 年の東京オリンピック、まだ 6 年あります。今からでも小さい子供たちに和の住まいの良さを知ってもらい、本当の意味での “おもてなし” のできる人が育つ環境を作っていきたいと思います。

本日は誠に有難うございました。

